

4. 喪失歯保有者率は 73.4%、一人平均喪失歯数は 2.7 歯であった。一人平均喪失歯数は 40～44 歳で 1.2 歯、45～49 歳で 2.4 歯、50～55 歳で 3.4 歯と、年齢と共に増加していた。
5. 処置歯保有者率は 98.3%、一人平均処置歯数は 13.8 歯であった。一人平均処置歯数は 40～44 歳で 14.4 歯、45～49 歳で 13.8 歯、50～55 歳で 13.6 歯と年齢とともに減少していた。
6. 歯肉出血のある者の割合は 73.2%、一人平均の歯肉出血歯数は 5.9 歯であった。一人平均の歯肉出血歯数は 40～44 歳で 5.2 歯、45～49 歳で 5.6 歯、50～55 歳で 6.3 歯と年齢とともに増加していた。
7. 歯石沈着のある者の割合は 84.1%、一人平均の歯石沈着歯数は 8.6 歯であった。一人平均の歯石沈着歯数は 40～44 歳で 8.4 歯、45～49 歳で 8.4 歯、50～55 歳で 8.8 歯と年齢とともに増加していた。
8. 歯周ポケットが 5mm 以上ある者の割合は 31.2%、一人平均の歯周ポケット 5mm 以上の歯数は 1.3 歯であった。一人平均の歯周ポケット 5mm 以上の歯数は 40～44 歳で 1.0 歯、45～49 歳で 1.3 歯、50～55 歳で 1.5 歯と年齢とともに増加していた。
9. 歯の清掃状態は「良好」が 15.7%、「普通」が 71.7%、「不良」が 12.6%であった。
10. 舌の清掃状態は「良好」が 23.1%、「普通」が 74.3%、「不良」が 2.6%であった。
11. 口臭のある者は全体では 34.2%であった。40～44 歳で 31.5%、45～49 歳で 32.6%、50～55 歳で 36.2%と年齢とともに増加していた。
12. 口腔乾燥のある者は全体では 3.9%であった。年齢別にみると 40～44 歳で 2.2%、45～49 歳で 2.1%、50～55 歳で 5.7%であった。
13. 粘膜所見が認められた者は全体では 1.7%であった。年齢別にみると 40～44 歳で 1.1%、45～49 歳で 1.4%、50～55 歳で 2.2%であった。
14. R S S T が 3 回未満の者は、全体では 12.6%であった。年齢別にみると 40～44 歳で 9.0%、45～49 歳で 14.2%、50～55 歳で 13.1%であった。
15. F T U は平均で 10.3 であった。年齢別にみると 40～44 歳で 10.9、45～49 歳で 10.5、50～55 歳で 9.9 であった。

## 2) 口腔の健康状態の自己評価と口腔疾患との関連

男性で有意差が認められた項目は、歯石付着の認められる歯の数と歯の清掃状況であった。口腔の健康状態の自己評価が不良な者の割合は、歯石付着のある歯数が 0 歯の者では 4.5%、1-5 歯の者では 10%、6 歯以上の者では 27.7%であった。また、歯の清掃状況が「良い・普通」群では 16.9%、「悪い」群では 43.4%であった（表 1）。

女性で有意差が認められた項目は未処置歯、喪失歯、口腔乾燥、粘膜組織疾患、FTU、歯の清掃状況であった。口腔の健康状態の自己評価が不良な者の割合は、未処置歯のある者、ない者ではそれぞれ 17%、32.8%、喪失歯が 0-2 歯の者では 19.4%、3 歯以上の者では

31.6%であった。また、口腔乾燥のある者、ない者ではそれぞれ 22.7%、50%、粘膜組織疾患のある者、ない者ではそれぞれ 23.2%、57.1%、歯の清掃状況の「良い・普通」群では 22%、「悪い」群では 42.9%、FTU の 0-10 の者では 18.3%、11-12 では 32%であった（表 2）。

### 3) ロジスティック回帰分析の結果

口腔の健康状態の自己評価（良好群=0、不良群=1）を従属変数とし、年齢（40～44 歳、45～49 歳、50～55 歳）、性別、口腔疾患を独立変数とし、ロジスティック回帰分析を行った。その結果、有意差がみられた項目は未処置歯、口腔乾燥、歯の清掃状況の 3 項目であった。未処置歯のない者に対して未処置歯のある者では 1.7 倍、口腔乾燥のない者に対して口腔乾燥がある者では 3.6 倍、歯の清掃状況の「良い・普通」群に対して「悪い」群では 2.2 倍、口腔の健康状態を悪いと自己評価していた（表 3）。

## D. 考察

本研究の対象者である 40～55 歳の成人では、未処置歯、口腔乾燥、歯の清掃状態の 3 項目が口腔の健康状態の自己評価と関連していることが判明した。未処置歯がある場合、口腔乾燥がある場合、歯の清掃状態が「悪い」場合には、本人が「自分の口腔の健康状態は不良である」と自己評価していた。

一方、歯周病の症状（歯石沈着、歯肉出血、歯周ポケット）と口腔の健康状態の自己評価には関連が認められなかった。成人では、歯周病の有病率が高いが、そのことを自覚する人が少ないことが明らかになった。

今後、成人を対象とした保健指導や健康教育の中で、歯周病の初期症状についての解説を十分に行い、自分で口腔観察をして初期症状を発見する眼を養うよう働きかけ、歯周病に対する関心を高めていくことが必要と考えられた。また、歯周病に罹患していることを本人に気づかせるような教材の開発や、歯周病の有無を容易に判定できる診断キットなどを工夫することも必要と思われる。

成人では、歯周病は歯の喪失の主な原因となるので、早期に発見し、早期に治療を受けることが大切である。口腔内に自覚症状がなくても、定期的に歯科医院を受診して、歯科医師による健診を受ける習慣を子供時代から身につけることが必要と考えられた。

## E. 結論

40～55 歳の地域住民 459 名（男性 154 名、女性 305 名）を対象に、口腔の健康状態の自己評価と口腔保健状況との関連を分析したところ、未処置歯、口腔乾燥、歯の清掃状態の 3 項目が口腔の健康状態の自己評価と有意に関連していた。しかし、歯周病の症状が認められても、歯周病の存在に気づいていない者が多く、今後、保健指導や健康教育の機会を利用して、歯周病に対する関心を高めていくことが必要と考えられた。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) Ueno M, Yanagisawa T, Shinada K, Ohara S, Kawaguchi Y.: Masticatory ability and functional tooth units in Japanese adults. *J Oral Rehabil*35(5):337-344, 2008.

### 2. 学会発表

- 1) 川口陽子, 植野正之, 柳澤智仁, 大原里子, 品田佳世子: 咬合状況を評価する機能歯ユニット(FTU)に関する研究(第1報)FTUと現在歯数との関連について, 第56回日本口腔衛生学会総会, 東京, 2007/10/3-5.
- 2) 植野正之, 柳澤智仁, 大原里子, 品田佳世子, 川口陽子: 咬合状況を評価する機能歯ユニット(FTU)に関する研究(第2報)FTUと咀嚼能力との関連について, 第56回日本口腔衛生学会総会, 東京, 2007/10/3-5.
- 3) 財津崇, 植野正之, 柳澤智仁, 大原里子, 品田佳世子, 川口陽子: 咬合状況を評価する機能歯ユニット(FTU)に関する研究(第3報)FTUと口腔の健康状態の自己評価との関連について, 第56回日本口腔衛生学会総会, 東京, 2007/10/3-5.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表 1

男性		N	%	口腔の健康状態の 自己評価「不良」群(%)	p-value
DT	なし	80	51.9	21.3	0.80
	あり	74	48.1	23.0	
MT	0-2 歯	105	68.2	22.9	0.73
	3 歯以上	49	31.8	20.4	
FT	12 歯以下	75	48.7	25.3	0.34
	13 歯以上	79	51.3	19.0	
出血歯数	0 歯	40	26	20.0	0.22
	1-5 歯	47	30.5	14.9	
	6 歯以上	67	43.5	28.4	
歯石歯数	0 歯	22	14.3	4.5	0.02 *
	1-5 歯	20	13	10.0	
	6 歯以上	112	72.7	27.7	
PD5mm 以上	0 歯	103	66.9	18.4	0.20
	1-5 歯	35	22.7	25.7	
	6 歯以上	16	10.4	37.5	
口臭	なし	86	55.8	18.6	0.24
	あり	68	44.2	26.5	
口腔乾燥	なし	151	98.1	21.2	0.06
	あり	3	1.9	66.7	
粘膜軟組織疾患	なし	153	99.4	22.2	0.59
	あり	1	0.6	0	
RSST	3 回以上	140	90.9	22.9	0.46
	0-2 回	14	9.1	14.3	
FTU	11 以上	84	54.5	20.2	0.55
	10 以下	70	45.5	24.3	
歯の清掃状態	よい・普通	124	80.5	16.9	0.00 *
	悪い	30	19.5	43.3	
舌の清掃状態	よい・普通	151	98.1	22.5	0.35
	悪い	3	1.9	0	

(\* : p&lt;0.05)

表 2

女性		N	%	口腔の健康状態の 自己評価「不良」群(%)	p-value	
DT	なし	171	56.1	17.0	0.00	*
	あり	134	43.9	32.8		
MT	0-2 歯	191	62.6	19.4	0.02	*
	3 歯以上	114	37.4	31.6		
FT	12 歯以下	84	27.5	23.8	0.98	
	13 歯以上	221	72.5	24.0		
出血歯数	0 歯	83	27.2	18.1	0.18	
	1-5 歯	98	32.1	22.4		
	6 歯以上	124	40.7	29.0		
歯石歯数	0 歯	51	16.7	21.6	0.71	
	1-5 歯	83	27.2	21.7		
	6 歯以上	171	56.1	25.7		
PD5mm 以上	0 歯	213	69.8	22.5	0.54	
	1-5 歯	74	24.3	25.7		
	6 歯以上	18	5.9	33.3		
口臭	なし	216	70.8	21.3	0.09	
	あり	89	29.2	30.3		
口腔乾燥	なし	291	95.4	22.7	0.02	*
	あり	14	4.6	50.0		
粘膜軟組織疾患	なし	298	97.7	23.2	0.04	
	あり	7	2.3	57.1		
RSST	3 回以上	261	85.6	23.4	0.58	
	0-2 回	44	14.4	27.3		
FTU	11 以上	180	59	18.3	0.01	*
	10 以下	125	41	32.0		
歯の清掃状態	よい・普通	277	74.4	22.0	0.01	*
	悪い	28	9.2	42.9		
舌の清掃状態	よい・普通	296	97	23.6	0.50	
	悪い	9	3	33.3		

(\* : p&lt;0.05)

表 3

Explanatory variable	N	p-value	Odds ratio	95.0% Confidence Interval	
				Lower	Upper
年齢	40-44 歳	89	0.82		
	45-49 歳	141	0.60	1.20	2.41
	50-55 歳	229	0.92	1.04	2.04
性別	男	154			
	女	305	0.33	1.30	2.20
DT	なし	251			
	あり	208	<b>0.04 *</b>	1.67	2.70
MT	0-2 歯	159			
	3 歯以上	300	0.45	1.25	2.21
FT	12 歯以下	122			
	13 歯以上	337	0.90	1.03	1.71
出血歯数	0 歯	123	0.85		
	1-5 歯	145	0.86	0.94	1.81
歯石歯数	6 歯以上	191	0.76	1.11	2.18
	0 歯	73	0.58		
PD5mm 以上	1-5 歯	103	0.66	1.21	2.81
	6 歯以上	283	0.33	1.46	3.17
口臭	0 歯	316	0.75		
	1-5 歯	109	0.92	0.97	1.74
口腔乾燥	6 歯以上	34	0.50	1.35	3.22
	なし	302			
粘膜軟組織疾患	あり	157	0.53	1.18	1.98
	なし	442			
RSST	あり	17	<b>0.02 *</b>	3.65	10.38
	なし	451			
FTU	あり	8	0.16	3.31	17.45
	3 回以上	401			
歯の清掃状態	0-2 回	58	0.84	1.08	2.14
	11 以上	264			
舌の清掃状態	10 以下	195	0.23	1.38	2.34
	よい・普通	401			
悪い	よい・普通	447	<b>0.02 *</b>	2.25	4.44
	悪い	12	0.53	0.60	2.96

(\* : p&lt;0.05)

平成 19 年度厚生労働科学研究費補助金（医療安全・医療技術評価総合事業）  
分担研究報告書

口腔機能と口腔疾患の効果的なスクリーニング法に関する研究

地域住民を対象とした質問票調査と口腔内診査の結果について

分担研究者 川口陽子（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

研究協力者 柳澤智仁（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

財津 崇（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

植野正之（東京医科歯科大学大学院健康推進歯学分野）

### 研究要旨

2007 年 8～9 月に、40～55 歳の地域住民 504 名（男性 173 名，女性 331 名）を対象に、質問票調査および歯科健診を実施した。質問票調査の中で、自覚症状として最も多く「はい」と答えたのは、「歯の間に食べ物がはさまりますか（86.1%）」で、次いで、「歯石がついていますか（75.1%）」、「口臭がありますか（50.1%）」、「黒くなったり、変色している歯がありますか（42.0%）」であった。口腔の健康状態の自己評価について質問したところ、「あまりよくない」は 21.7%、「よくない」は 3.0%で、75%の者は「ふつう」以上の自己評価をしていた。しかし、歯科健診の結果、歯磨き指導が必要な者は 29.2%、う蝕治療が必要な者は 47.0%、歯石除去が必要な者は 69.2%、歯周病治療が必要な者は 42.9%、義歯の治療が必要な者は 4.0%であり、指導や治療が全く必要ない者は 11.7%であった。すなわち、歯科医師が対象者の口腔内を診査して、約 88%の者は歯科保健指導や歯科治療が必要であると診断したが、自分で口腔内に問題のあると認識している人は 25%しかいなかった。口腔内は鏡を使用すれば自分の眼で確認できる部位なので、口腔疾患の初期症状やリスク要因に関する情報提供を積極的に行って本人の気づきを促すこと、また、集団健診の場で、歯科医師による歯科健診が実施できない状況においても、他の医療職が口腔疾患に関する適切な助言ができるようなシステムを構築することが必要と考えられた。

### A. 目的

歯の喪失は咀嚼機能や嚥下機能を低下させ、QOL にも影響を与える。日本人が歯の喪失を引き起こす主な原因であるう蝕や歯周病は、初期の段階では痛み等の明確な自覚症状が少ない。しかし、う蝕や歯周病の病状が進み、痛みや歯の動揺・歯肉からの排膿等の明らかな自覚症状を本人が訴えて歯科医院を受診したときには、すでに歯の保存が不可能な症例も少なくない。したがって、口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い

人への保健指導は重要と考えられている。

母子保健の中では1歳6か月児健康診査や3歳児健康診査が、また、学校保健の中では定期健康診断が行われ、その中には歯科健診も含まれている。しかし、成人を対象とした集団健診の際に歯科健診が実施されることは少なく、本人が自発的に歯科医院を受診しないかぎり、歯科健診を受ける機会はほとんどない。

労働者を対象とした産業保健では、一般健康診断は1年に1回実施されているが、口腔領域に現れる職業性疾患の検診以外に、歯科健康診断を実施している事業所は少ない。また、健康診断の中で歯科健康診断を行っている事業所においてもすべての労働者を対象とはしないで、希望者のみにオプションとして歯科健康診断を実施しているところが多い。

平成20年度からわが国では特定健康診査、特定保健指導が導入されることになった。その中で、口腔の健康の大切さは謳われているが、具体的な歯科健康診査や歯科保健指導は含まれていない。

このように、成人を対象とした集団歯科健診が広がらない理由の一つとして、一般の健診とは異なり、歯科健診では歯科医師が一人ずつ口腔内診査を行ってスクリーニングを行うので、マンパワーやコストが高くなることが挙げられる。

広く多くの成人を対象として口腔疾患のスクリーニングを行うためには、歯科専門家がいなくても、質問票などを使用して自覚症状の有無などによりスクリーニングを行うことが望ましいと考えられる。したがって、歯科専門家の関与なしに実施可能で、かつ簡便で効果的な口腔機能と口腔疾患のスクリーニング法を新たに開発することが必要と思われる。

本研究は、このようなスクリーニング法を開発するための基礎資料を得るために、地域住民を対象とした調査を行ったので、その結果概要について報告する。

## B. 方法

2007年4月現在、秋田県横手市の増田地域局、平鹿地域局、大森地域局、十文字地域局、山内地域局、大雄地域局管内に在住している40～55歳の住民10,771名に対し、本研究の目的と内容を説明し、研究への協力を依頼した。その中で、実際に質問票調査と歯科健診を受けたのは男性が173名(平均年齢:48.0±4.4歳)、女性が331名(49.2±4.3歳)、計504名(48.8±4.3歳)である。質問票調査および歯科健診は横手歯科医師会、ひらか歯科医師会に所属する歯科診療所において2007年8～9月に行われた。

質問票調査の項目は、1. 口腔の健康状態の自己評価、2. 自分の歯あるいは義歯を使用して咬合できるかという質問、3. 現在歯数(5つのカテゴリー別)、4. 義歯の使用の有無、5. 甘味食品の摂取、6. 甘味飲料の摂取、7. 自覚症状の有無(22項目)、8. 歯磨き回数、9. 歯磨き時期、10. 十分な歯磨き、11. 1日の歯磨き時間の合計、12. 歯間清掃用具の使用、13. 歯磨剤の使用、14. 歯磨き指導の有無、15. 鏡による口腔観察、16. 口腔の清掃状態の自己評価、17. かかりつけ歯科医の有無、18. 歯科健診受診の有無、19. 歯石除去経験、20. 喫煙習慣、21. 糖尿病の有無、22. 写真と比較した歯肉の状態の判定、23. 鏡を見て現在歯数を数え



ることである。

口腔内診査では、1. 歯の状況、2. 歯肉の状況、3. 口腔清掃状態（歯、義歯、舌）、4. 口臭・口腔乾燥の有無、5. 臼歯部の咬合接触状況、6. その他の所見を総合的にみて、健診結果の判定を行った。結果は、それぞれの項目別に男女別、年齢階級別に単純集計を行った。

## C. 結果

本研究で分析対象としたのは、質問票調査および歯科健診を受けた男性 173 名、女性 331 名、計 504 名である。これは対象地域に住む 40～55 歳人口の 4.7%に相当する。

40～44 歳（男性 42 名、女性 61 名）、45～49 歳（男性 65 名、女性 87 名）、50～55 歳（男性 66 名、女性 183 名）の 3 つの年齢階級および性別に分けて、質問票調査および歯科健診の結果をまとめ、表 1～表 33、図 1～図 31 に示す。

### I. 質問票調査の結果

1. 「今のお口の健康状態はどうですか？」という質問に対して、6.8%が「よい」、16.5%が「まあよい」、52.1%が「ふつう」、21.7%が「あまりよくない」、3.0%が「よくない」と回答した。
2. 「現在、自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめられますか？」という質問に対して、80.4%が「両側で可能」14.7%が「片側なら可能」と回答した。
3. 「あなたの歯の数は、現在どのくらいありますか？」という質問に対して、28～32 本が 34.6%、20～27 本が 57.2%、10～19 本が 6.0%、1～9 本が 2.2%、0 本が 0%であった。90%以上が 20 本以上自分の歯があると回答した。
4. 「取り外しのできる入れ歯（義歯）を使っていますか？」という質問には、「使っていない」が 89.5%、「持っているが使っていない」が 4.2%、「いつも使っている」が 5.6%、「食事の時のみ使っている」が 0.2%、「食事の時以外使っている」が 0.4%であった。
5. 「甘い物（和菓子やケーキ、ビスケットなど）はどれくらい食べていますか？」という質問に対して、8.8%が「ほとんど食べない」、36.5%が「週に 1～2 回」、23.7%が「週に 3～4 回」、5.8%が「週に 5～6 回」、17.3%が「毎日 1 回」、7.6%が「毎日 2～3 回」、0.4%が「毎日 4 回以上」と回答した。
6. 「甘い飲み物（コーラやジュース、砂糖入りの飲み物）は、どのくらい飲みますか？」という質問に対して、31.6%が「ほとんど飲まない」、29.0%が「週に 1～2 回」、12.5%が「週に 3～4 回」、5.0%が「週に 5～6 回」、11.5%が「毎日 1 杯」、8.9%が「毎日 2～3 杯」、1.4%が「毎日 4 杯以上」と回答した。
7. 自覚症状の有無
  - 1) 「冷たいもので痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは 20.3%であった。
  - 2) 「熱いもので痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは 4.6%であった。

- 3) 「甘いもので痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは7.2%であった。
  - 4) 「かむと痛む歯がありますか？」に「はい」と回答したのは9.6%であった。
  - 5) 「欠けたり、穴のあいている歯がありますか？」に「はい」と回答したのは27.7%であった。
  - 6) 「詰めものやかぶせたものが取れた歯がありますか？」に「はい」と回答したのは15.0%であった。
  - 7) 「黒くなったり、変色している歯がありますか？」に「はい」と回答したのは42.0%であった。
  - 8) 「歯ぐきが腫れていますか？」に「はい」と回答したのは20.8%であった。
  - 9) 「歯ぐきから血が出ますか？」に「はい」と回答したのは35.9%であった。
  - 10) 「歯ぐきから膿が出ますか？」に「はい」と回答したのは2.8%であった。
  - 11) 「歯ぐきが下がって歯の根が出てきましたか？」に「はい」と回答したのは33.2%であった。
  - 12) 「しみる歯はありますか？」に「はい」と回答したのは29.3%であった。
  - 13) 「歯石がついていますか？」に「はい」と回答したのは75.1%であった。
  - 14) 「口臭がありますか？」に「はい」と回答したのは50.1%であった。
  - 15) 「グラグラ動く歯がありますか？」に「はい」と回答したのは9.7%であった。
  - 16) 「歯の間に食べ物がはさまりますか？」に「はい」と回答したのは86.1%であった。
  - 17) 「口の中がネバネバしますか？」に「はい」と回答したのは26.7%であった。
  - 18) 「何でもかんで食べられますか？」に「いいえ」と回答したのは12.7%であった。
  - 19) 「かたいものが食べにくくなりましたか？」に「はい」と回答したのは21.1%であった。
  - 20) 「お茶や汁物などでむせることがありますか？」に「はい」と回答したのは8.7%であった。
  - 21) 「口の渇きが気になりますか？」に「はい」と回答したのは16.1%であった。
  - 22) 「口を大きく開け閉めしたとき、あごの痛みがありますか？」に「はい」と回答したのは5.8%であった。
8. 「歯みがきは1日に何回していますか？」という質問に対して、18.2%が「毎日1回」、47.9%が「毎日2回」、33.9%が「毎日3回以上」と回答した。みがかない者はいなかった。
  9. 「現在、歯磨きはいつしていますか？」という質問に対して、26.0%が「朝起きた時」、74.8%が「朝食後」、37.2%が「昼食後」、3.6%が「間食後」、85.3%が「夕食後または寝る前」と回答した。
  10. 「十分な時間（1回に10分以上）をかけて歯をみがくことがありますか？」という質問に対して、70.3%が「ほとんどない」、16.5%が「週に1~2日」、5.6%が「週に3~4日」、7.6%が「ほぼ毎日」と回答した。

11. 「現在、1日に合計で何分歯を磨いていますか？」という質問に対して、0.2%が「みがかない」、16.4%が「1～2分」、32.6%が「3～4分」、28.0%が「5～9分」、16.8%が「10～14分」、6.0%が「15分以上」と回答した。
  12. 「フロス(糸ようじ)や歯間ブラシを使って歯と歯の間を掃除していますか？」という質問に対して、57.7%が「ほとんどない」、20.9%が「週に1～2日」、6.2%が「週に3～4日」、15.3%が「ほぼ毎日」と回答した。
  13. 「歯をみがく時、歯磨き剤を使っていますか？」に「はい」と回答したのは97.4%であった。「歯磨き剤を使っている場合、その歯磨き剤はフッ素入りですか？」という質問に対して、38.4%が「フッ素入りである」、10.5%が「フッ素入りでない」、51.1%が「わからない」と回答した。
  14. 「歯のみがき方を習ったことはありますか？」に「はい」と回答したのは79.0%であった。
  15. 「鏡で歯や歯ぐきの様子を観察していますか？」という質問に対して、49.2%が「ほとんどない」、23.0%が「月に1回以上」、27.8%が「週に1回以上」と回答した。
  16. 「今のご自分のお口の汚れはどうですか？」という質問に対して、0.8%が「とてもきれい」、3.8%が「ややきれい」、65.1%が「ふつう」、24.6%が「ややきたない」、5.8%が「きたない」と回答した。
  17. 「かかりつけ歯科医を決めていますか？」に「はい」と回答したのは75.9%であった。
  18. 「この1年間に歯の健康診査を受けたことがありますか？」に「はい」と回答したのは29.2%であった。
  19. 「この1年間に歯石や歯の汚れを取ってもらったことがありますか？」に「はい」と回答したのは35.5%であった。
  20. 「タバコは吸っていますか？」に、18.5%が「吸っている」、13.5%が「やめた」、68.1%が「吸わない」と回答した。
  21. 「糖尿病にかかっていますか？」に「はい」と回答したのは3.2%であった。
  22. 「自分の歯ぐきはどの写真に一番近いですか？」という質問に対して、手鏡で確認して回答した結果は、「健康な歯肉」が49.6%、「歯肉炎」が30.1%、「歯周炎」が13.7%、「喫煙者の歯肉」が6.6%であった。
  23. 「手鏡で確認して、自分の歯が何本あるか数えてみてください。」という指示への回答は、40～44歳が27.8歯、45～49歳が27.0歯、50～55歳が25.9歯であり、年齢が高くなるにしたがい、歯の本数が低くなる傾向が認められた。
- |     |     |       |     |       |    |       |    |      |
|-----|-----|-------|-----|-------|----|-------|----|------|
| 500 | 247 | 49.4% | 152 | 30.4% | 68 | 13.6% | 33 | 6.6% |
|-----|-----|-------|-----|-------|----|-------|----|------|

## II. 歯科健診の結果

1. 未処置保有者率はC1以上が49.6%、C2以上が35.9%、C3以上が8.3%であった。また、処置歯保有者率は98.2%、喪失歯保有者率は73.6%であった。

2. 一人平均現在歯数は 40～44 歳で 27.8 歯、45～49 歳で 26.3 歯、50～55 歳で 25.2 歯であった。一人平均未処置歯数は 40～44 歳で 2.3 歯、45～49 歳で 1.9 歯、50～55 歳で 1.6 歯であった。
3. 歯肉の状態は、「正常」が 23.0%、「退縮」が 40.5%、「発赤」が 55.3%、「排膿」が 6.4%、動揺が 10.2%であった。
4. C P I は、0 が 8.7%、1 が 2.6%、2 が 30.6%、3 が 43.7%、4 が 14.5%であった。
5. 歯の清掃状態は「良好」が 15.1%、「普通」が 71.7%、「不良」が 13.3%であった。
6. 義歯の清掃状態は「良好」が 4.7%、「普通」が 3.7%、「不良」が 0.2%、義歯がない者が 91.5%であった。
7. 舌の清掃状態は「良好」が 22.5%、「普通」が 74.6%、「不良」が 2.8%であった。
8. 口臭が強い者が 4.4%、弱い者が 31.9%、ない者が 63.7%であった。
9. 口腔乾燥のある者は 3.5%であった。
10. 臼歯部の咬合接触状態のある者は、右大臼歯部で 91.7%、右小臼歯部で 97.0%、左大臼歯部で 92.3%、左小臼歯部で 97.8%であった。
11. 粘膜所見が認められたのは 1.6%であった。
12. RSST の結果は、1 回目は 40～44 歳で 5.8 回、45～49 歳で 5.0 回、50～55 歳で 5.2 回であった。2 回目は、40～44 歳で 7.5 回、45～49 歳で 6.7 回、50～55 歳で 6.8 回と増加していた。
13. 健診の結果、正常は 11.7%、歯磨き指導が必要な者は 29.2%、う蝕治療が必要な者は 47.0%、歯石除去が必要な者は 69.2%、歯周病治療が必要な者は 42.9%、義歯の治療が必要な者は 4.0%であった。

#### D. 考察

本研究の対象者は、う蝕や歯周病の治療のために歯科医院を受診した患者ではなく、自ら進んで歯科健診を受けた一般住民である。歯科健診を受けなかった者と比較すると、歯の健康に対する関心が高かった可能性が考えられるが、それでも「口腔内が健康である」と診断されたのは約 12%であり、約 88%の者は歯科保健指導や歯科治療が必要であると判定された。

このように多くの人が口腔内に問題があることが明らかになったが、実際に自分の口腔内状況を「あまりよくない」、「よくない」と認識している者は 25%と少なかった。う蝕や歯周病などの口腔疾患は、初期には痛みなどの自覚症状を伴わないことが多いため、本人が口腔疾患の有無を正しく認識しないことが原因と考えられる。したがって、症状がなくても定期的に歯科健診を受診することが大切となるが、実際、我が国では諸外国と比較して定期的に歯科健診を受診する成人の割合は少ない。

口腔疾患は早期に発見すれば治療費用も治療時間も少なく済むが、疾患が進行し、重

症化してから治療を受けると治療費用や治療時間がかかるだけでなく、歯の喪失に起因する咀嚼機能や嚥下機能の低下、発音障害、審美性の障害などQOLの低下を招き、また、糖尿病など全身疾患にも影響を及ぼすことも危惧される。

今後、8020を達成していくための歯科保健対策を考えていく上で、成人を対象として口腔疾患の早期発見、早期治療、また、疾患リスクが高い人への保健指導を行うことは重要である。口腔内は鏡を使用すれば自分の眼で確認できる部位なので、口腔疾患の初期症状やリスク要因に関する情報提供を積極的に行って本人の気づきを促すこと、また、集団健診の場で、歯科医師による歯科健診が実施できない状況においても、他の医療職が口腔疾患に関する適切な助言ができるようなシステムを構築することが必要と考えられた。

#### **E. 研究発表**

1. 論文発表 未定
2. 学会発表 未定

#### **F. 知的財産権の出願・登録状況**

なし

資料

I. 質問票の回答結果

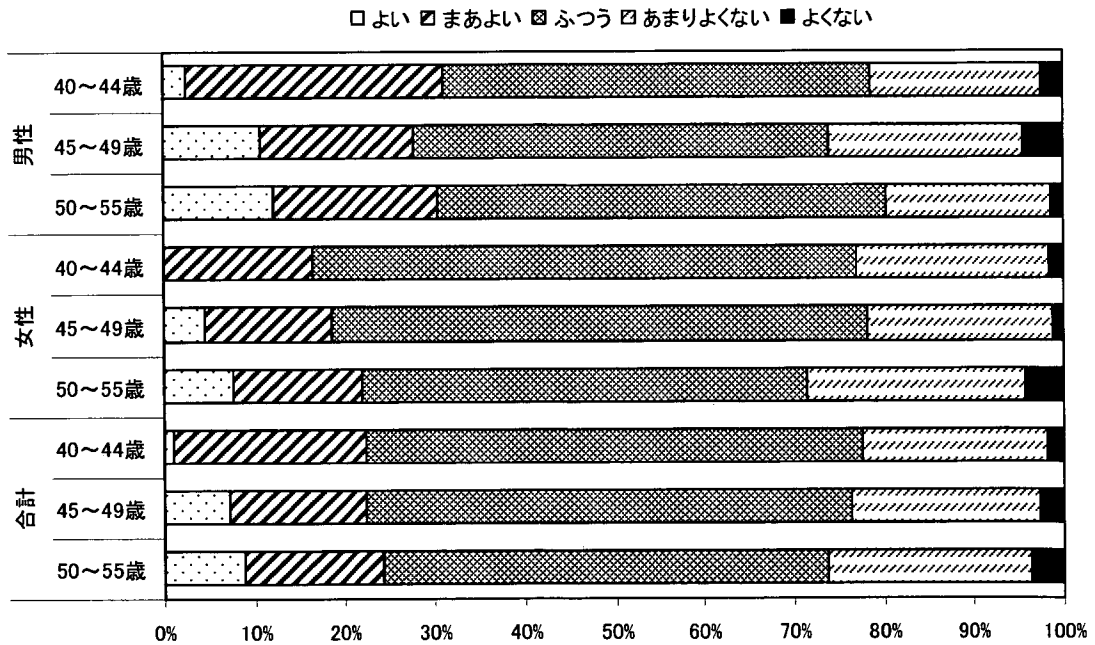
1. 今のお口の健康状態はどうか？

回答結果を表 1, 図 1 に示す.

表 1

		n	よい		まあよい		ふつう		あまりよくない		よくない	
男性	40～44 歳	42	1	2.4%	12	28.6%	20	47.6%	8	19.0%	1	2.4%
	45～49 歳	65	7	10.8%	11	16.9%	30	46.2%	14	21.5%	3	4.6%
	50～55 歳	66	8	12.1%	12	18.2%	33	50.0%	12	18.2%	1	1.5%
女性	40～44 歳	61	0	0.0%	10	16.4%	37	60.7%	13	21.3%	1	1.6%
	45～49 歳	87	4	4.6%	12	13.8%	52	59.8%	18	20.7%	1	1.1%
	50～55 歳	182	14	7.7%	26	14.3%	90	49.5%	44	24.2%	8	4.4%
合計	40～44 歳	103	1	1.0%	22	21.4%	57	55.3%	21	20.4%	2	1.9%
	45～49 歳	152	11	7.2%	23	15.1%	82	53.9%	32	21.1%	4	2.6%
	50～55 歳	248	22	8.9%	38	15.3%	123	49.6%	56	22.6%	9	3.6%
	計	503	34	6.8%	83	16.5%	262	52.1%	109	21.7%	15	3.0%

図 1



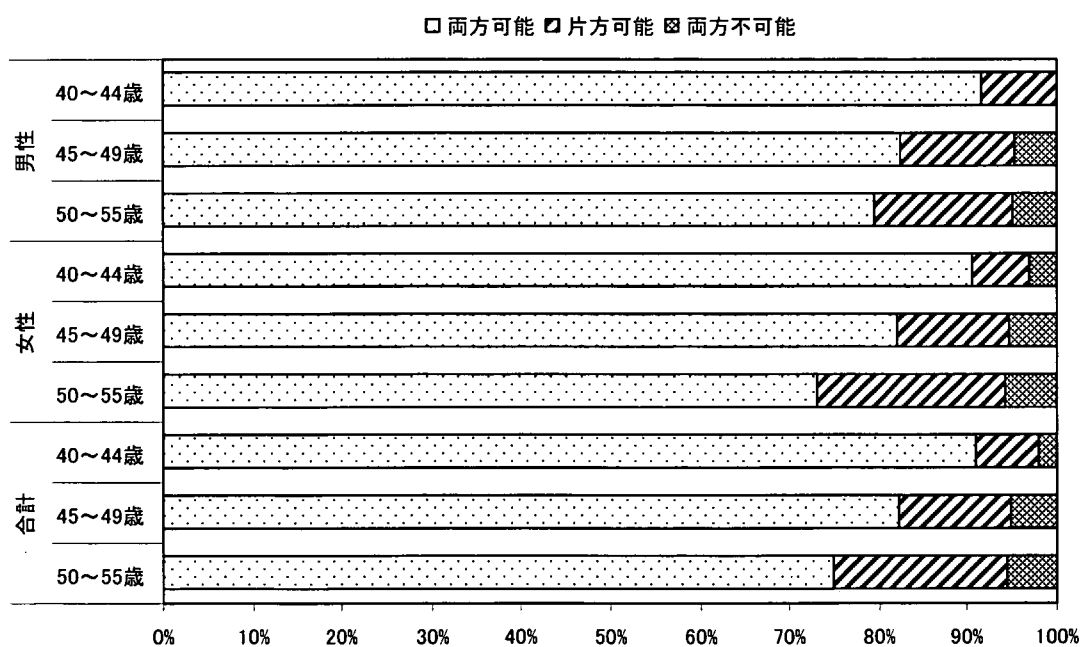
2. 現在、自分の歯または入れ歯で左右の奥歯をしっかりとかみしめられますか？

回答結果を表 2、図 2 に示す。

表 2

		n	両方可能		片方可能		両方不可能	
男性	40～44 歳	42	36	85.7%	4	9.5%	2	4.8%
	45～49 歳	65	57	87.7%	7	10.8%	1	1.5%
	50～55 歳	66	50	75.8%	9	13.6%	7	10.6%
女性	40～44 歳	61	53	86.9%	6	9.8%	2	3.3%
	45～49 歳	87	74	85.1%	10	11.5%	3	3.4%
	50～55 歳	183	135	73.8%	38	20.8%	10	5.5%
合計	40～44 歳	103	89	86.4%	10	9.7%	4	3.9%
	45～49 歳	152	131	86.2%	17	11.2%	4	2.6%
	50～55 歳	249	185	74.3%	47	18.9%	17	6.8%
	計	504	405	80.4%	74	14.7%	25	5.0%

図 2



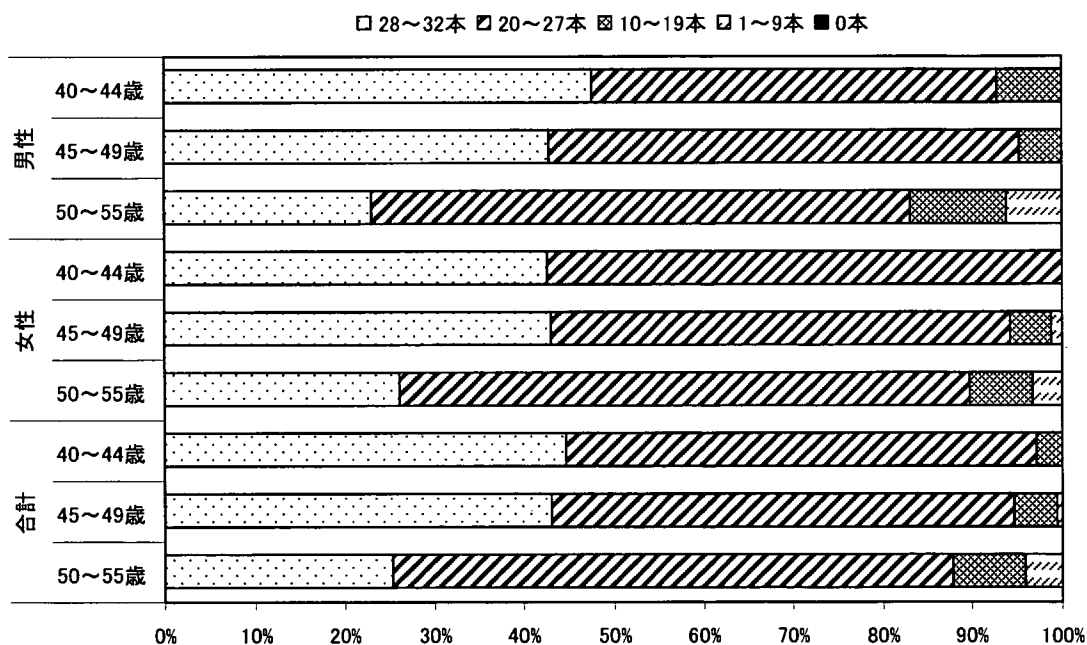
### 3. あなたの歯の数は、現在どのくらいありますか？

回答結果を表 3, 図 3 に示す.

表 3

		n	28~32本		20~27本		10~19本		1~9本		0本	
男性	40~44歳	42	20	47.6%	19	45.2%	3	7.1%	0	0.0%	0	0.0%
	45~49歳	63	27	42.9%	33	52.4%	3	4.8%	0	0.0%	0	0.0%
	50~55歳	65	15	23.1%	39	60.0%	7	10.8%	4	6.2%	0	0.0%
女性	40~44歳	61	26	42.6%	35	57.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	45~49歳	86	37	43.0%	44	51.2%	4	4.7%	1	1.2%	0	0.0%
	50~55歳	183	48	26.2%	116	63.4%	13	7.1%	6	3.3%	0	0.0%
合計	40~44歳	103	46	44.7%	54	52.4%	3	2.9%	0	0.0%	0	0.0%
	45~49歳	149	64	43.0%	77	51.7%	7	4.7%	1	0.7%	0	0.0%
	50~55歳	248	63	25.4%	155	62.5%	20	8.1%	10	4.0%	0	0.0%
	計	500	173	34.6%	286	57.2%	30	6.0%	11	2.2%	0	0.0%

図 3





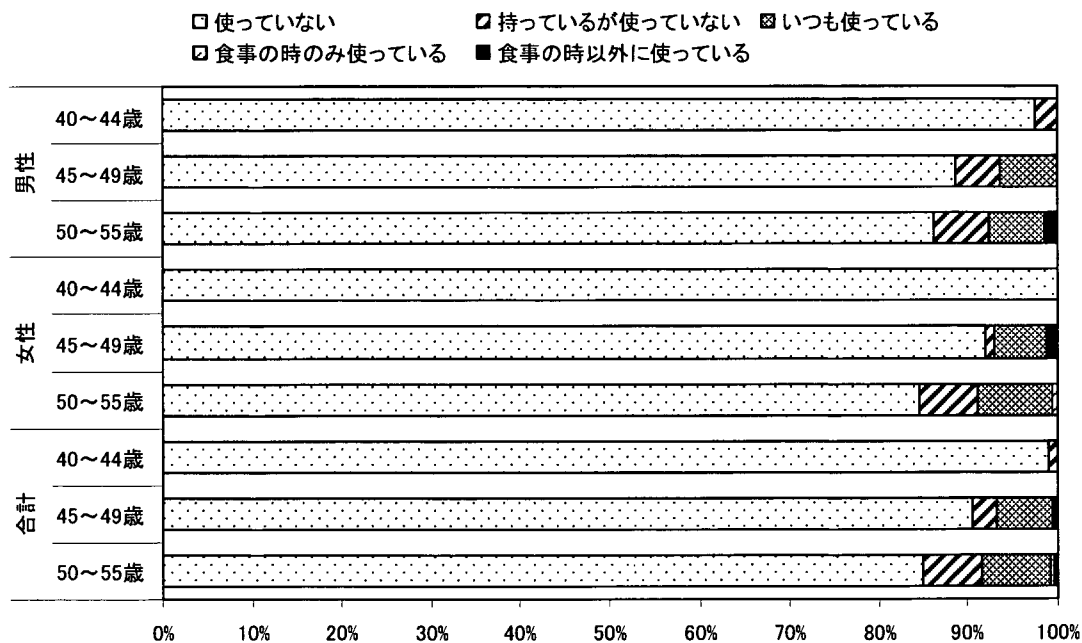
#### 4. 取り外しのできる入れ歯（義歯）を使っていますか？

回答結果を表 4、図 4 に示す。

表 4

		n	使っていない		持っているが 使っていない		いつも 使っている		食事の時のみ 使っている		食事の時以外 に使っている	
男性	40～44 歳	41	40	97.6%	1	2.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	45～49 歳	62	55	88.7%	3	4.8%	4	6.5%	0	0.0%	0	0.0%
	50～55 歳	65	56	86.2%	4	6.2%	4	6.2%	0	0.0%	1	1.5%
女性	40～44 歳	61	61	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	45～49 歳	87	80	92.0%	1	1.1%	5	5.7%	0	0.0%	1	1.1%
	50～55 歳	181	153	84.5%	12	6.6%	15	8.3%	1	0.6%	0	0.0%
合計	40～44 歳	102	101	99.0%	1	1.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	45～49 歳	149	135	90.6%	4	2.7%	9	6.0%	0	0.0%	1	0.7%
	50～55 歳	246	209	85.0%	16	6.5%	19	7.7%	1	0.4%	1	0.4%
	計	497	445	89.5%	21	4.2%	28	5.6%	1	0.2%	2	0.4%

図 4



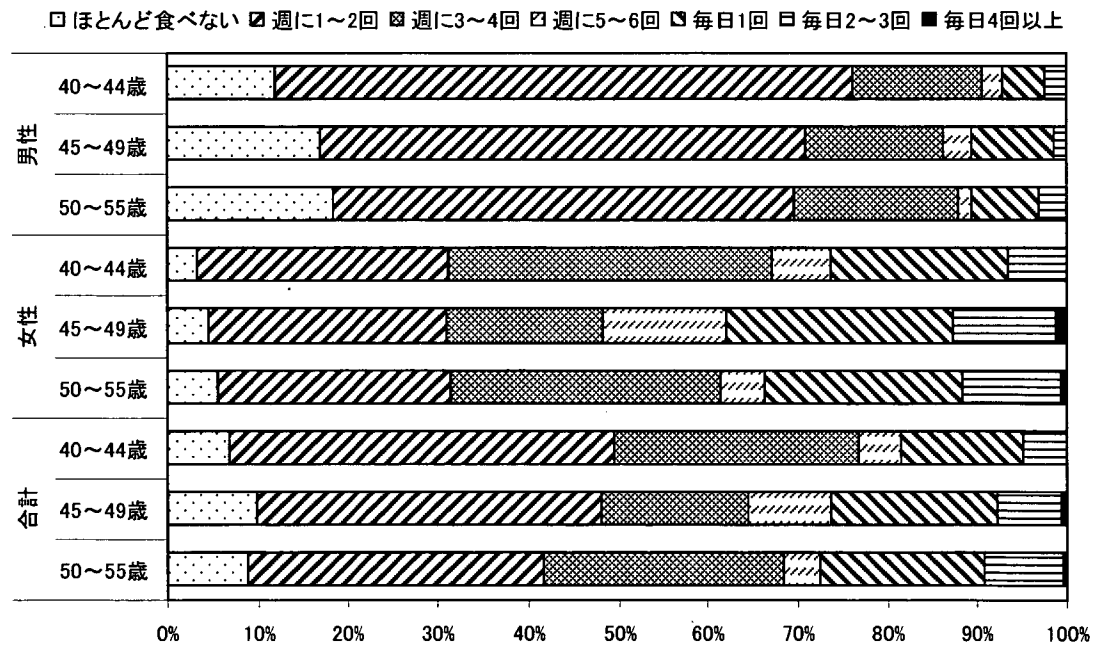
5. 甘い物(和菓子やケーキ, ビスケットなど)はどれくらい食べていますか？

回答結果を表5, 図5に示す.

表5

		n	ほとんど食べない	週1~2回	週3~4回	週5~6回	毎日回	毎日2~3回	毎日4回以上
男性	40~44歳	42	5 11.9%	27 64.3%	6 14.3%	1 2.4%	2 4.8%	1 2.4%	0 0.0%
	45~49歳	65	11 16.9%	35 53.8%	10 15.4%	2 3.1%	6 9.2%	1 1.5%	0 0.0%
	50~55歳	66	12 18.2%	34 51.5%	12 18.2%	1 1.5%	5 7.6%	2 3.0%	0 0.0%
女性	40~44歳	61	2 3.3%	17 27.9%	22 36.1%	4 6.6%	12 19.7%	4 6.6%	0 0.0%
	45~49歳	87	4 4.6%	23 26.4%	15 17.2%	12 13.8%	22 25.3%	10 11.5%	1 1.1%
	50~55歳	181	10 5.5%	47 26.0%	54 29.8%	9 5.0%	40 22.1%	20 11.0%	1 0.6%
合計	40~44歳	103	7 6.8%	44 42.7%	28 27.2%	5 4.9%	14 13.6%	5 4.9%	0 0.0%
	45~49歳	152	15 9.9%	58 38.2%	25 16.4%	14 9.2%	28 18.4%	11 7.2%	1 0.7%
	50~55歳	247	22 8.9%	81 32.8%	66 26.7%	10 4.0%	45 18.2%	22 8.9%	1 0.4%
計		502	44 8.8%	183 36.5%	119 23.7%	29 5.8%	87 17.3%	38 7.6%	2 0.4%

図5



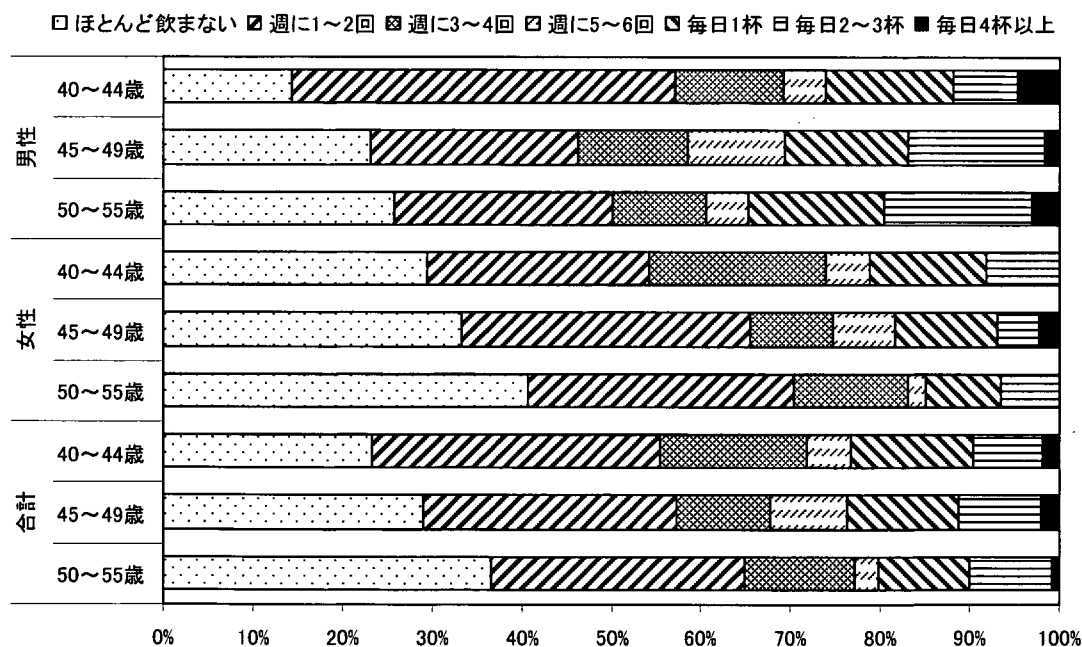
6. 甘い飲み物(コーラやジュース, 砂糖入りの飲み物)はどれくらい飲みますか？

回答結果を表 6, 図 6 に示す.

表 6

	n	ほとんど飲まない	週に1~2回	週に3~4回	週に5~6回	毎日1杯	毎日2~3杯	毎日4杯以上
男性	40~44歳	6 14.3%	18 42.9%	5 11.9%	2 4.8%	6 14.3%	3 7.1%	2 4.8%
	45~49歳	15 23.1%	15 23.1%	8 12.3%	7 10.8%	9 13.8%	10 15.4%	1 1.5%
	50~55歳	17 25.8%	16 24.2%	7 10.6%	3 4.5%	10 15.2%	11 16.7%	2 3.0%
女性	40~44歳	18 29.5%	15 24.6%	12 19.7%	3 4.9%	8 13.1%	5 8.2%	0 0.0%
	45~49歳	29 33.3%	28 32.2%	8 9.2%	6 6.9%	10 11.5%	4 4.6%	2 2.3%
	50~55歳	74 40.7%	54 29.7%	23 12.6%	4 2.2%	15 8.2%	12 6.6%	0 0.0%
合計	40~44歳	24 23.3%	33 32.0%	17 16.5%	5 4.9%	14 13.6%	8 7.8%	2 1.9%
	45~49歳	44 28.9%	43 28.3%	16 10.5%	13 8.6%	19 12.5%	14 9.2%	3 2.0%
	50~55歳	91 36.7%	70 28.2%	30 12.1%	7 2.8%	25 10.1%	23 9.3%	2 0.8%
計	503	159 31.6%	146 29.0%	63 12.5%	25 5.0%	58 11.5%	45 8.9%	7 1.4%

図 6



7. 次の症状がありますか？それぞれお答えください

それぞれの自覚症状に関する質問への回答結果を表 7-1～22, 図 7-1～22 に示す.

1) 冷たいもので痛む歯がありますか？

表 7-1

		n	あり		なし	
男性	40～44 歳	42	9	21.4%	33	78.6%
	45～49 歳	65	16	24.6%	49	75.4%
	50～55 歳	66	12	18.2%	54	81.8%
女性	40～44 歳	61	13	21.3%	48	78.7%
	45～49 歳	87	9	10.3%	78	89.7%
	50～55 歳	182	43	23.6%	139	76.4%
合計	40～44 歳	103	22	21.4%	81	78.6%
	45～49 歳	152	25	16.4%	127	83.6%
	50～55 歳	248	55	22.2%	193	77.8%
	計	503	102	20.3%	401	79.7%

図 7-1

